日本デジタル教科書学会
ニュースレター No.24
2023 年 7 月

編集：日本デジタル教科書学会 広報委員会
(kouhou@js-dt.jp)
発行：日本デジタル教科書学会 事務局
〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町
京都大学教育学研究科内
WEB ： http://js-dt.jp/　e-mail ： office@js-dt.jp

♦ 第 12 回大会（信州大会）のおさそい

第 12 回大会が 2023 年 8 月 19 日(土) ～20 日(日)、信州大学長野（教育）キャンパスにおいて行われます。実行委員会を組織し、準備を進めています。堀田龍也先生（東北大学）、武藤久慶先生（文部科学省）をお迎えしたシンポジウム、3 件のワークショップの他、一般研究発表を計画しています。

会場は信州大学教育学部です。最寄りの長野駅からバス＋徒歩で 15 分くらいです。健康のために歩けば徒歩 30 分です。宿泊場所は長野駅周辺に多数あります。近くには「庶民の寺」として有名な善光寺がありますので、ぜひお立ち寄りください。

今回の大会では校務 ICT 化の流れと同様に、今後の大会の持続可能性を高めるために、大会実行委員会の負担を極力削減して運営をスリム化します。そのため、ご参加のみなさまにお手伝いをお願いすることがあるかもしれませんが、「みんなで作る大会」という感覚でお願いしたいと思います。

詳細は大会ウェブサイトをご覧ください。
https://shinshu2023.js-dt.jp/

ご参加、お待ちしています！

第 12 回大会（信州大会）実行委員長 島田英昭（信州大学）

♦ 第 44 回北陸三県教育工学研究大会（富山大会）

令和 5 年 2 月 19 日（日）、富山大学教育学部を会場に、第 44 回北陸三県教育工学研究大会（富山大会）が開催されました。テーマは、「個別最適な学びと協働的な学びにおける ICT 活用」でした。3 つの分科会で、14 件の研究発表があり、1 つの分科会と講演については、オンライン配信も行いました。石川県教育工学研究会会員の方からの研究発表も 2 件あり、北陸地区での研究や実践に関わる交流の場ともなりました。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、そして教育センターの先生方、教職大学院の現職院生、内地留学生等、様々な所属の方が参加し、ICT 活用に限らず、多様なテーマでの研究発表が行われました。

講演は、富山大学大学院教職実践開発研究科長の成瀬喜則先生による「グローバルの扉を開く教育工学との出会い」でした。本大会のテーマである ICT 活用のみでなく、教育工学、グローバル、データサイエンス、SDGs 等、広い視野から日頃の教育実践の在り方を考えてみる上で大変参考になりました。また、成瀬先生が進めてこられた数々の先進的な取組を聞かせていただく中で、教育工学の歴史も振り返ることができました。

閉会の挨拶では、富山県教育工学研究会会長の山西潤一先生から、これまでの本研究会の歴史を分かりやすく説明していただいた上で、現在の教育の現状と今後私たちが進むべき方向について教えていただきました。

本研究会の事前の準備や当日の運営は、事務局のみでなく、富山大学教職大学院の院生の皆さんからご協力をいただきました。また、日本デジタル教科書学会、富山県教育委員会からの後援をいただくことにより、たくさんの方々より、ご発表、ご参加いただくことができました。皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

長谷川春生（富山大学）

♦ 研究グループに対する助成報告

この研究グループは，以下のような背景及び目的から設立しました。

「中学校において学習指導要領が全面実施され１年以上が経過した（助成の申請時点）。コロナ禍の影響もあり、オンラインによる学習支援は一般化しつつあるが、学習指導要領が要請する学びに対して、中学校は未だ対応して切れていない現状を垣間見る。そこで、若手中学校教師と共に１人１台端末を活用した授業開発を実施し、本学会での口頭発表等を通じて、研究グループ参加者の授業力量向上を図ることを目的とする。」

途中、１人１台端末が整備され運用が始まったばかりの高等学校の英語科教諭も参画し、報告者を含め５名で研究グループを構成し動き始めました。月に１回程度の頻度で学習会を実施し、１回あたり 90 分～120 分で進めてきました。参加者が自身の関心・必要感に応じて個人テーマを設定し、レジュメにまとめて持ち寄り、報告し合うという展開でオンラインによって実施しています（現在も継続中）。

参加者はそれぞれ、北濱康裕教諭（理科）、白土瑞樹教諭（国語）、西岡 遼教諭（理科）、岩崎啓子教諭（英語）の教科を担当し、個人の研究テーマに応じた授業を開発し、有用性の検証を実施してきました。有用性の検証の際には、量的データだけに限らず、生徒の記述内容等の質的データにも着目して変容を把握し、自らの取組を客観的に評価し、まとめるプロセスを重視しています。その際、学習会の助成金を用いて、参考にすべき教育実践や評価方法、データ処理方法を学ぶための書籍を購入したことで学びの機会が大きく拓かれたと感じています。

参加者一人一人が継続したテーマで研究を進めてきたことを生かし、2023 年度内に参加者が所属する地域で開催する研究会での発表や、日本デジタル教科書学会の年次大会・研究会における研究発表を行う予定です。

貴重な資金を提供していただき心より感謝いたします。研究グループを代表して厚く御礼申し上げます。

研究グループ助成期間（2022 年 5 月～2023 年 4 月）
研究グループ代表・小林祐紀（茨城大学）

♦ 学会費納入のお願い

先日、学会費納入のお願いを郵送させていただきました。ただし、住所が古い場合は郵便物が届いていない場合があります。会員専用ページから修正いただくか、事務局までメールにてご連絡ください。

♦ 学会誌「日本デジタル教科書研究」への投稿募集

デジタル教科書研究の投稿論文を随時募集しています。一般論文、展望論文、実践論文の 3 つのカテゴリーがありますが、実践論文を積極的に評価しています。原著論文ほどの厳密さがなくても、実験段階の理論を実践的に応用した研究、新しいアイディアの実践的検証等を報告論文として積極的に評価します。もちろんアカデミックな一般論文、展望論文も歓迎します。

デジタル教科書研究の詳細については、学会ウェブサイトをご覧ください。
https://js-dt.jp/2013/12/3354/

また、「実践研究論文化支援プロジェクト」 の参加者も募集しています。優れた実践が多数あると思いますが、実践者は必ずしも実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家ではないため、「学術研究として実践を公開して貢献したいが、論文執筆の方法がわからない」という方もいらっしゃると思います。

そこで、実践者から優れた実践を公募し、実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家である本学会所属の研究者が協力することで、査読論文としての公開を支援するプロジェクトを実施しています。随時募集しています。相談だけでも結構です。知の蓄積に貢献しませんか？

詳細はウェブサイトをご覧ください。
https://js-dt.jp/supprt_project-2/

論文の投稿、論文化支援プロジェクトへのお申し込み、お待ちしています。

デジタル教科書学会編集委員長　島田英昭（信州大学）